

平成21年度版
行田市環境報告書

ほし
～この地球とともに～



平成22年3月

行田市

目 次

行田市環境報告書とは？	1
（1）環境報告書が作られるまで	1
（2）目的	1
（3）構成	2
第1章 環境に関する市の取組について	3
（1）環境に関する計画等の位置づけ	3
（2）環境基本計画の概要	4
（3）環境基本計画の点検・評価の仕組み	5
第2章 市内の環境の状況	7
第3章 環境基本計画の進捗状況	15
（1）目玉的施策の進捗状況	16
（2）重点的施策の進捗状況	20
（3）数値目標の達成状況	36

行田市環境報告書とは？

(1)環境報告書がつくられるまで

行田市では、平成14年3月に『行田市環境基本条例』を施行し、さらに同条例に基づき、平成16年3月に『行田市環境基本計画』（以下、「環境基本計画」といいます。）を策定しました。

その後、環境基本計画の実効性をより確実にするため、平成17年3月に『行田市環境基本計画 第1次実行計画』（以下、「実行計画」といいます。）を策定しました。

また、平成18年3月には、市民や事業者のみなさまが環境に配慮する際の参考となる『行田市環境基本計画配慮指針』（以下、「配慮指針」といいます。）を発行し、環境基本計画を市民、事業者、市の三者で進めていくための基盤を整えました。

これらを受けて、平成18年度から、行田市の環境の現状や、環境に関する施策の進捗状況などを整理した『行田市環境報告書』の作成を行っています。

(2)目的

行田市環境報告書は、市民のみなさまに行田市の環境行政の進捗状況をお伝えすることを目的としています。

読者・利用者の目的に応じて、さまざまな使い方が考えられます。例えば、こんなときに使ってみてはどうでしょうか？

- 行田の環境がどうなっているのか知りたい！
- 行田市の環境への取り組みについて知りたい！
- 環境保全活動への参加のヒントにしたい！
- 公害問題の現状を知りたい！・・・など

(3)構成

この環境報告書は、次のように3章から構成され、平成20年度の実施状況を中心にまとめられています。

■第1章:環境に関する市の取組

環境基本計画をはじめとする環境に関する各種計画の位置づけや、環境基本計画の概要、点検・評価の仕組みについて紹介しています。

■第2章:市内の環境の状況

行田市の自然環境、生活環境（公害）、都市環境、資源・エネルギー、環境保全活動の現状について紹介しています。

■第3章:環境基本計画の進捗状況

環境基本計画に掲げられている施策の進捗状況および指標・目標の達成状況について報告しています。

●—— 第1章 環境に関する市の取組について ——●

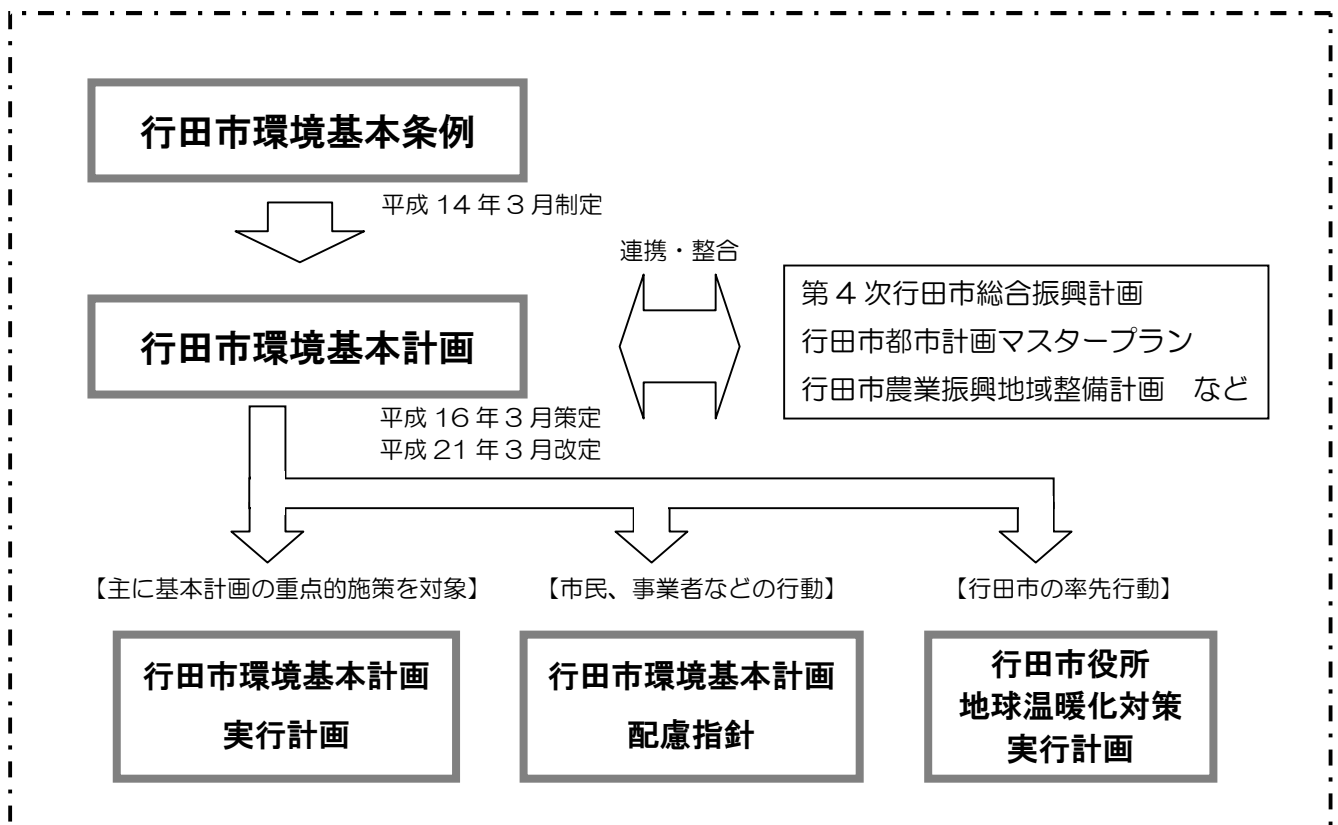
本章では、行田市の環境の保全や創造に関する施策を進めるための計画である『行田市環境基本計画』を中心とする環境に関する計画等の位置づけや、環境基本計画の概要、進行管理の体制等を紹介します。

(1)環境に関する計画等の位置づけ

行田市では平成14年3月に制定された『行田市環境基本条例』をはじめとし、環境基本計画、実行計画、環境配慮指針等を策定し、環境への取組を進めてきました。

これらの環境に関する計画等の位置づけは、以下のとおりです。

●環境に関する計画等の位置づけ



(2)環境基本計画の概要

環境基本計画は、現在及び将来の市民の健康で文化的な生活の確保に寄与することを目的として、平成16年3月に策定されました。行田市環境基本条例の理念に基づいて、行田市の環境の保全及び創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進するための基本的な計画であります。環境基本計画は、平成20年度に見直しを行い、平成21年3月に改定版を策定しました。

○計画の期間

2004年度（平成16年度）から2013年度（平成25年度）までの10年間です。

ただし、社会・経済・環境など著しく変化した場合には計画を見直すなど、柔軟に対応するものとします。

○計画の推進主体及び対象範囲

計画の推進主体は、市民（NPO団体）、市内に事業所を持つ事業者及び行田市の三者です。

また、計画では自然環境、生活環境、都市環境、資源・エネルギーの活用、環境活動・環境学習、地球環境のすべてを対象範囲とします。

○行田市の望ましい環境像と5つの基本目標

環境基本計画では、望ましい環境像と、その実現に向けた基本目標を以下のとおり設定しています。

★行田市の望ましい環境像

先人から受け継いだ美しい田園風景と歴史的遺産を囲む豊かな自然環境を
人々の生活との調和を図りながら守り育てるまち

★5つの基本目標

自然の恵みと生き物の営みを守り育てる

大気・水・土が安全で公害のないまちをつくる

歴史や文化が息づく、環境に配慮した都市空間を創出する

ごみ減量、資源・エネルギーの有効利用をし、産業や経済との調和を図る

行田市全体で地球環境に配慮した活動に取り組む

環境基本計画の実効性をより確実にするために策定された実行計画は、目玉的施策をはじめ、重点的施策に係る個別目標及び実施スケジュール、計画の進捗状況・目標達成状況を評価するための数値目標などを定めています。

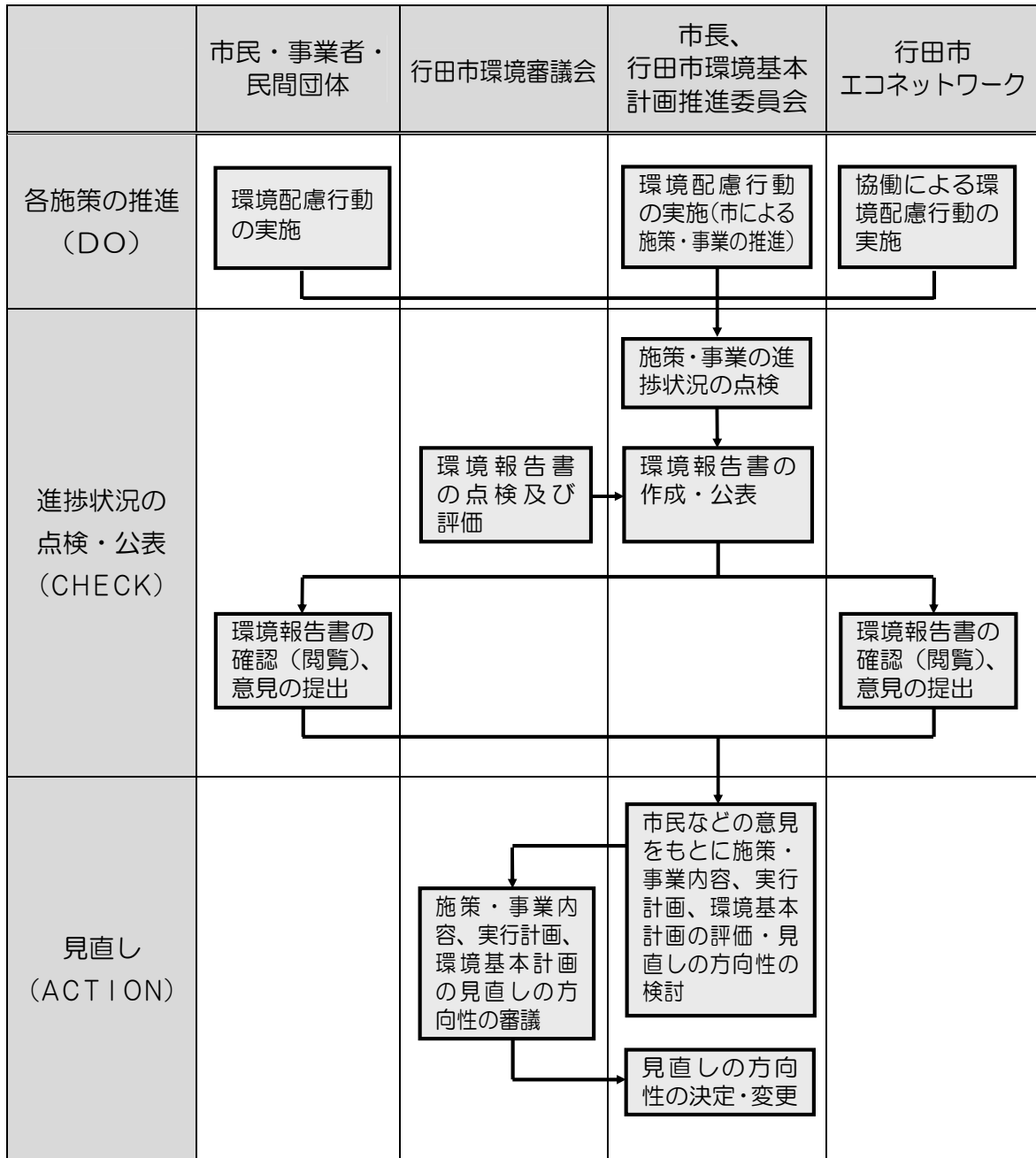
(3)環境基本計画の点検・評価の仕組み

環境基本計画を着実に進めるために、市民、事業者及び市による自主的な取り組みと、継続的な改善が必要です。そのため、環境基本計画の進行管理は、6 ページの表のとおり、計画（Plan：環境基本計画、実行計画、配慮指針）→各施策の推進（Do）→進捗状況の点検（Check）→見直し（Action）という、PDCA サイクルによる進行管理システムを導入しています。

このシステムは、環境基本計画に基づく各主体の取り組みの進捗状況を点検・評価して、環境報告書を公表し、各主体、各組織のコミュニケーションを図りながら、今後の施策・事業のあり方や計画の見直しに反映させようというものです。



●進行管理の流れ



第 2 章 市内の環境の状況

本章では、行田市の自然環境、生活環境（公害）、都市環境、資源・エネルギー、環境保全活動の現状について紹介します。

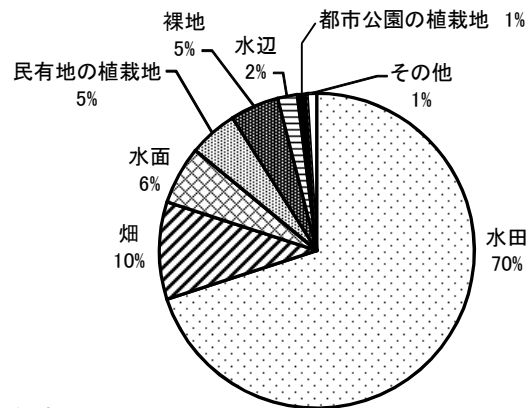
①自然、生き物

みどりの割合

平成 10 年度の行田市全体の面積（6,155ha）に対する緑地や水辺の面積（3,884.4ha）は、63.1%です。

そのうち、水田が約 7 割を占めています。自然林や人工林、二次林はほとんどありません。また、「民有地の植栽地」が 4 番目に多い（5%）ことから、屋敷林や雑木林などの緑が重要な役割を占めていると考えられます。

●緑の現況量の割合



（合計 3,884.4ha）
資料：行田市みどりの基本計画策定報告書

自然環境調査を実施しました！

市内の動植物の生息・生育状況を把握し、地域の特徴を活かした適切な保護・保全対策の検討を行っていくために、平成 19 年度に自然環境調査を実施しました。調査は、荒木地区長善沼、北河原地区切り所沼、南河原地区星川、埼玉地区小崎沼周辺の 4 地点で実施しました。

植物は 4 種類（キタミソウ、ミズワラビ、コイヌガラシ、ヒメミソハギ）、哺乳類は 2 種（タヌキ、イタチ）、両生類はトウキョウダルマガエル、爬虫類はクサガメ、鳥類は 8 種類（カワウ、チュウサギ、アオサギ、トビ、チョウゲンボウ、バン、イソシギ、カワセミ）の希少種が確認されています。

●さまざまな希少種



ヒメミソハギ



チュウサギ

②公害

大気の現状

大気中のダイオキシン類、浮遊粒子状物質（SPM）、二酸化窒素（NO₂）、二酸化硫黄（SO₂）といった大気汚染物質の濃度については、平成 20 年度は、平成 19 年度に引き続きいずれの大気汚染物質濃度も環境基準値以下でした。

●大気汚染物質濃度測定結果(H20)

項目	濃度	環境基準
SPM (mg/m ³)	0.025 (行田)	0.1
NO ₂ (ppm)	0.014 (行田)	0.04
SO ₂ (ppm)	0.001 (熊谷)	0.04
ダイオキシン (pg-TEQ/m ³)	0.044 (行田市役所)	0.6

資料：環境課

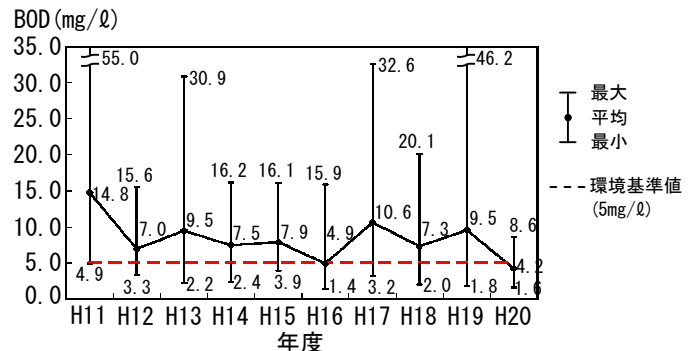
括弧内は測定局名

水質の現状

水質汚濁の指標となる BOD（生物化学的酸素消費量）の全河川の平均値については、平成 11 年以降、4.2～14.8mg/l で推移しており、平成 16 年度、20 年度を除き環境基準値である 5mg/l を上回っていました。

市では、水環境の保全のためにも浄化槽の適正な使用を進めるため、平成 21 年 3 月に「浄化槽管理者講習会」を開催するなど、浄化槽管理者の意識啓発を行っています。

●BOD 濃度の推移



対象河川：新忍川、長野藩、北河原用水、荒川左岸幹線用水及び酒巻導水路
 最大＝河川毎の BOD 値の 4 季平均（一部 2 季）の最大
 平均＝全河川、4 季（一部 2 季）の BOD 値の平均
 最小＝河川毎の BOD 値の 4 季平均（一部 2 季）の最小

資料：環境課

土壌の現状

市では、土壌中のダイオキシン類濃度を測定しています（市内 3 箇所）。平成 20 年度は、いずれの地点も環境基準値以下でした。

●土壌中ダイオキシン類濃度測定結果(H20)

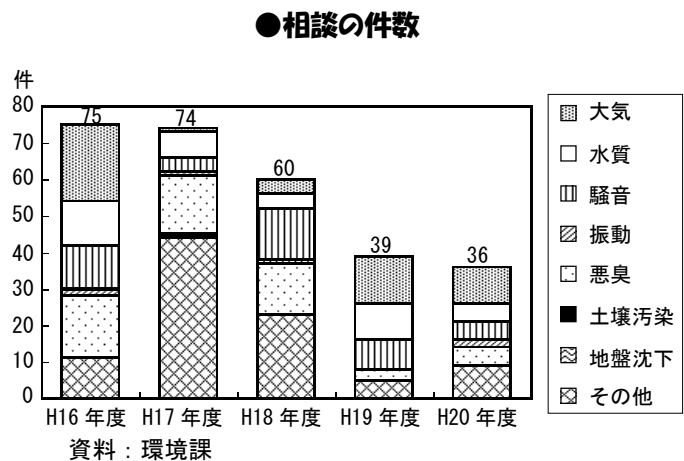
調査地点	濃度 (pg-TEQ/g)	環境基準 (pg-TEQ/g)
南河原学童保育室	2.6	1,000
見沼元塚公園	12.0	
中里農村センター	14.0	

資料：環境課

市民からの相談

市民からの相談件数は、平成 20 年度は合計 36 件で、平成 19 年度よりも 3 件減少しました。

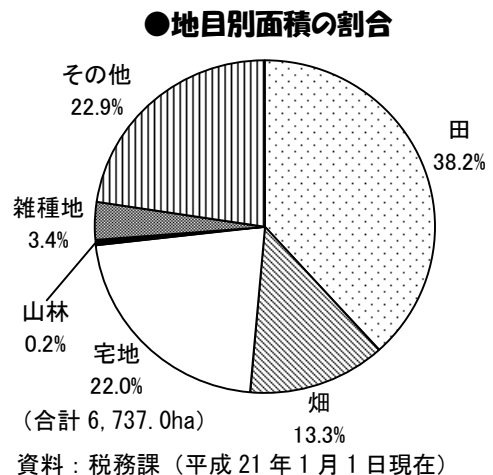
相談の内容をみると、大気に関するものが最も多く、水質、騒音、悪臭と続いています。



③都市環境

農業のまち行田

行田市では、地目別面積の田と畑の合計が 5 割を超えており、依然として農業がさかんであることがわかります。しかし、前年と比較すると、宅地の割合が 9.9ha 増加し、田と畑がそれぞれ 7.0ha、2.0ha 減少するなど、わずかではありますが農地から宅地への転換が見受けられてきています。



「浮き城のまち景観賞」

行田市では、平成 17 年度、市内に存在する自然や歴史、街並みなどに関する景観資源の掘り起こしにより、行田市の持つ魅力を市内外に広く発信し、景観まちづくりへの気運を高めるため、周辺の景観に配慮するなど、良好な景観の創出に寄与した建築物等を表彰する制度「浮き城のまち景観賞」を創設しました。平成 20 年度は、「忠次郎蔵」と「武蔵野銀行 行田支店」が受賞しました。

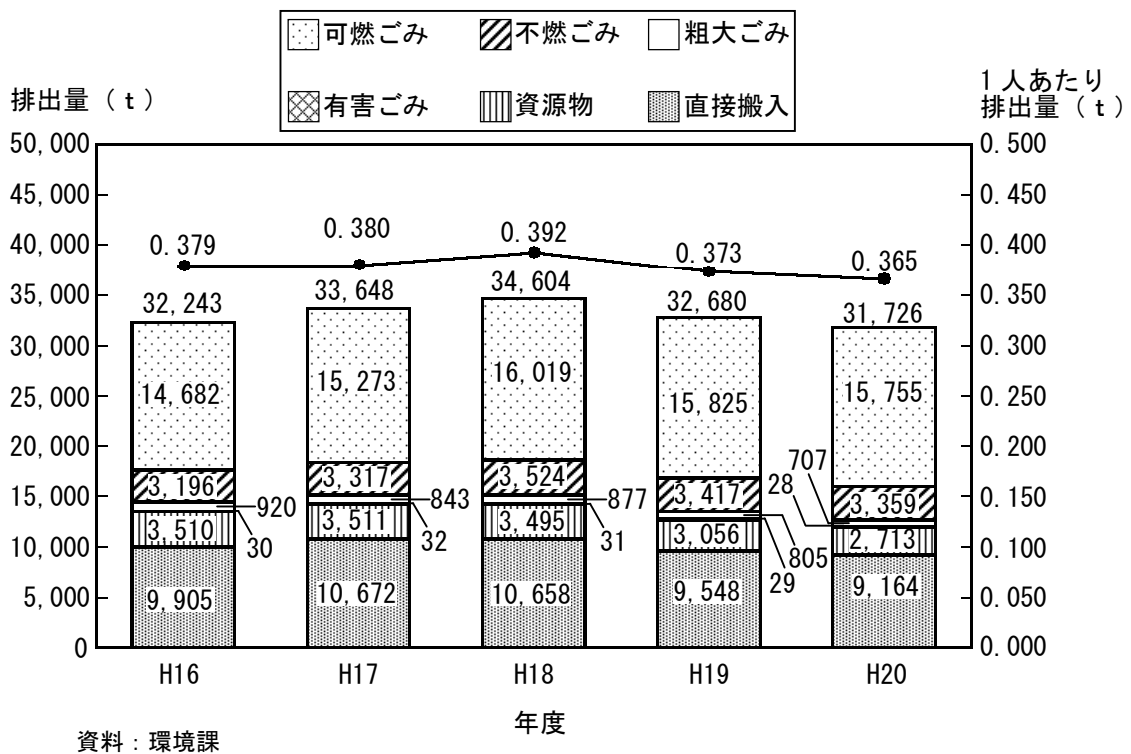
④ごみ、資源、エネルギー

ごみ減量は進んでいる？

ごみの総排出量、一人あたりの排出量ともに、平成16年度以降、増減を繰り返しています。平成20年度のごみ排出量は、31,726トンで、前年度より約954トン減少しました。一人あたりの排出量で見ると、前年度より約8kg減少しました。

種類別にみると、可燃ごみが約半分を占めています。無駄な食材を買わずに生ごみを減らす、紙を大量に消費しないなど、生活の中で取り組めることも多くありますので、一人ひとりが気をつけていくことが大切です。

●ごみ排出量の推移

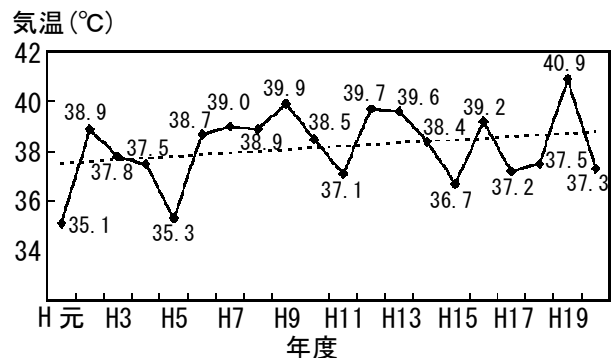


行田市周辺の気温の変化

行田市近傍（熊谷气象台）における平成20年の年最高気温は37.3℃で、最高気温を更新した前年より3.6℃減少しました。過去20年間を見ても、年最高気温は上昇傾向にあります。これは、地球温暖化やヒートアイランド現象などの影響があると考えられます。

行田市でも、CO₂削減に向けた取り組みが一層求められます。

●年最高気温の推移



エネルギーの使用状況(水道)

地球温暖化対策を進めるためにエネルギーの消費量を減少させていくことが不可欠です。平成20年度の水道の給水量は、旧行田市地区、旧南河原地区ともに前年度よりも減少しました。

●水道給水量の推移

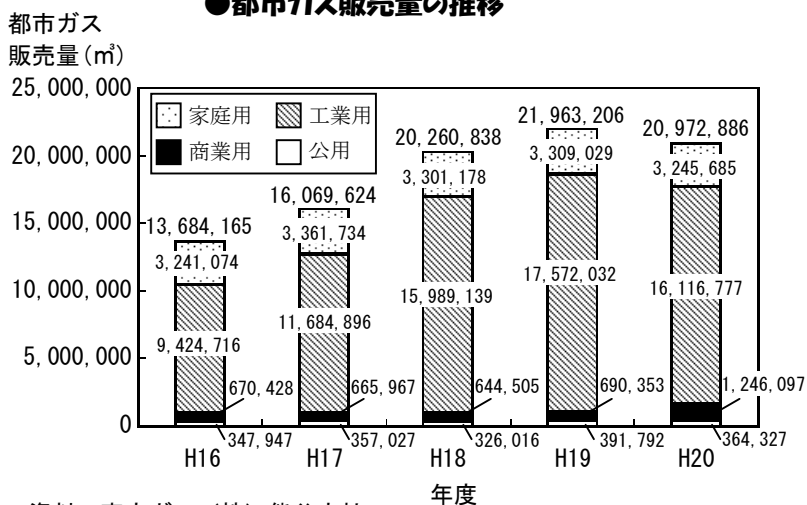
	平成 18 年度 (m ³)	平成 19 年度 (m ³)	平成 20 年度 (m ³)
旧行田市地区	9,711,057	9,748,920	9,547,054
旧南河原地区	364,519	377,833	374,028
合計	10,075,576	10,126,753	9,921,082

資料：水道課

エネルギーの使用状況(都市ガス)

行田市全体で使っている都市ガスの量は、近年一貫して増加を続けていましたが、平成20年度は、前年度よりも約99万m³減少しています。

●都市ガス販売量の推移

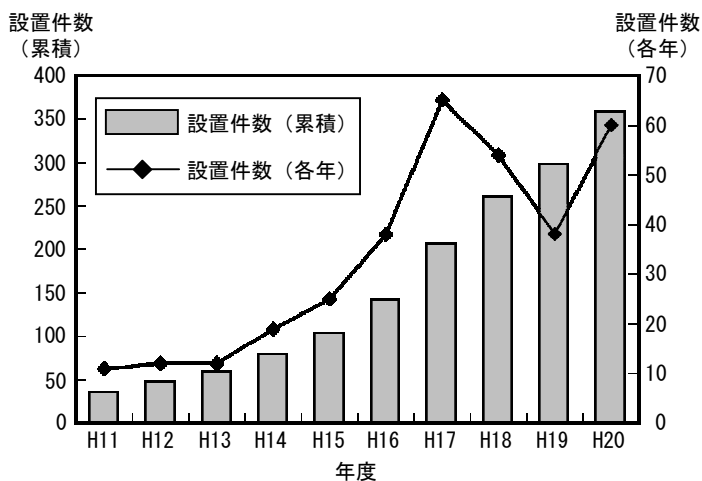


新エネルギーの導入について

行田市における住宅用太陽光発電システム導入数は、平成19年度は38件、平成20年度は60件でした。

地球温暖化対策には新エネルギーは不可欠と考えられています。

●住宅用太陽光発電システム設置件数

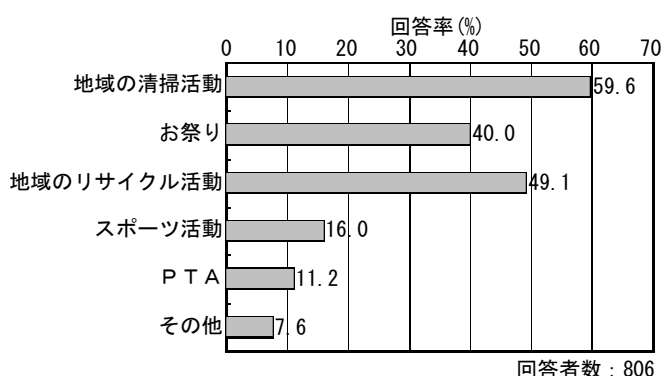


⑤環境保全活動

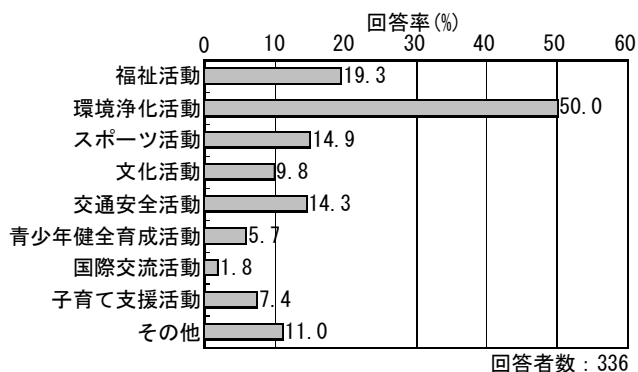
環境に対する市民の高い意識

行田市では、平成 21 年度に行田市民意識調査を行いました。参加したい地域活動について聞いたところ、約 6 割の方が「地域の清掃活動」と回答しました。また、参加しているボランティア活動については、半数が「環境浄化活動」と回答しており、環境に対する市民の高い意識がうかがえます。

●参加したい地域活動



●参加しているボランティア活動



資料：行田市民意識調査報告書

市による環境保全活動

行田市では、市民への環境問題の啓発を行い、市民や事業者と一緒に環境保全を行うためのイベントを定期的開催しています。

●主な環境保全活動、イベント(平成 20 年度)

イベント名	時期	概要
ごみゼロ運動	平成 20 年 4 月 20 日	市内清掃活動を行いました。
出前講座 (2 件)	平成 20 年 7 月 7 日 平成 20 年 12 月 17 日	以下のテーマで出前講座を実施しました。 ・ごみ問題はなぜ解決しないのか (2 件)
市内一斉空き缶回収運動	平成 20 年 11 月 16 日	市内清掃活動を行いました。
ごみ問題を考えるつどい	平成 21 年 2 月 21 日	講演「地域資源活用型の地域づくりとビジネス」を行いました。

地球温暖化防止に向けて

行田市では、平成 20 年 3 月に、行田市役所地球温暖化対策実行計画を改定しました。この計画において、行田市では、市の事務・事業から発生する温室効果ガス排出量を、平成 24 年度までに平成 18 年度の排出量を基準として 4.0%以上削減することを目標に掲げました。

●温室効果ガス削減状況

基準値 (基準年)	目標 (平成 24 年度末)	実績 (平成 20 年度末)
8,640.5 t-CO ₂ (平成 18 年度)	4.0% 以上削減 (8,294.9 t-CO ₂ 以下)	1.97%削減 (8,470.4t-CO ₂)

【 基本方針 】

- ・ 第 1 次実行計画で掲げた取組を引き続き徹底する。
- ・ 施設の老朽化に伴う設備の更新時には、省エネルギー設備を導入する。



行田市環境活動マップ～どこでどんな活動をやっているの？

市民団体と市が協働で取り組んでいる環境保全活動を紹介します。近くで行われている活動や、興味がある分野の活動があったら、参加してみたいかどうかでしょうか。

○総合公園でのビオトープづくり

市民、NPO 法人、行田市等の協働により、ビオトープ（生物生息空間）として浮島いかだをつくり、公園内の池の水の浄化や水辺の自然再生を図ります。



* 環境課 (TEL:048-556-9530)

○ホテルの保全活動

「古代蓮の里ホテルの会」のボランティアと市が協力して、ホテルの幼虫の飼育・観察や放流などを行っています。

* まちづくり推進課
(TEL:048-556-1111)



○水城公園等清掃活動

地域の自治会などとともに、水城公園等の清掃を年 3 回行っています。

* まちづくり推進課
(TEL:048-556-1111)



○みんなで守ろうふるさとの森 ～緑のボランティア～

年 1 回、3 月末の日曜日に、埼玉地区にある前玉（さきたま）神社で、樹木の間引き、枝切り、除草、ごみ拾いなどの手入れを行っています。

* 教育委員会ひとつくり支援課
(TEL:048-556-8319)



○市内一斉！清掃活動

環境美化の一環として、年 2 回春と秋に、行田市衛生協力会連合会・行田市自治会連合会・行田市コミュニティ協議会の三者共催で、市民のみなさんと一緒に、市内一斉に清掃活動を実施しています。

* 生活課 (TEL:048-556-1111) / * 環境課 (TEL:048-556-9530)



第 3 章 環境基本計画の進捗状況

本章では、環境基本計画の進捗状況として、①目玉的重点施策の進捗状況、②基本目標ごとに定められた重点的施策の進捗状況、③数値目標の達成状況について報告します。

●5つの基本目標とは？

行田市環境基本計画（4 ページ参照）は、望ましい環境像を実現するための目標として、以下のような「5つの基本目標」を設定しています。

基本目標 1

自然の恵みと生き物の営みを守り育てる

利根川や荒川等の自然の恩恵や美しい田園風景を守り、生態系及び貴重な動植物を次世代に引き継ぎます。

基本目標 2

大気・水・土が安全で公害のないまちをつくる

澄んだ水、きれいな空気、安全な食べ物がある、安心して暮らせる環境を維持します。

基本目標 3

歴史や文化が息づく、環境に配慮した都市空間を創出する

さきたま古墳公園や古代蓮の里、忍城址等の歴史的、文化的資産を活かし、景観やアメニティに配慮した環境づくりを進めます。

基本目標 4

ごみ減量、資源・エネルギーの有効利用をし、産業や経済との調和を図る

ごみの分別やりサイクル、ごみの減量にはさらに力を入れ、省エネルギーにも目を向けながら、産業や経済との調和を図ります。

基本目標 5

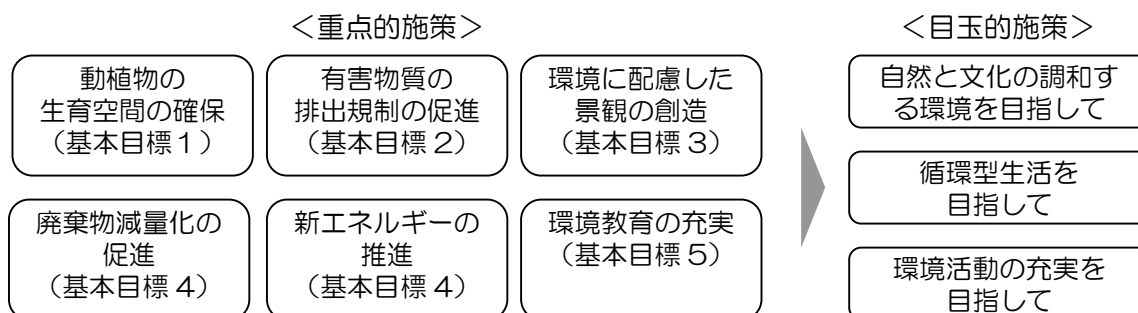
行田市全体で地球環境に配慮した活動に取り組む

日常生活、学校教育・社会教育等の場を通じて一人ひとりが地球環境問題への意識を高め、市民、事業所、市が一体となって積極的に環境等の保全に取り組み、環境意識の向上を図ります。

●重点的施策・目玉的施策とは？

環境基本計画では、望ましい環境像の実現に向けて、早急かつ重点的に取り組むべき6つの施策を「重点的施策」として設定しています。

さらに、重点的施策の中から行田市にとって特徴的なものや、複数の取組を連携させることによって、より大きな効果が期待されるものを取り上げ、3つの「目玉的施策」としています。



(1)目玉的重点施策の進捗状況

ここでは、3つの目玉的重点施策に沿って、平成20年度における重点目標の達成状況、事業（実施プログラム）の進捗状況、個別目標・指標の達成状況について報告します。

なお、達成度を評価する基準は、以下のとおりです。

A=目標が達成されている（目安；100%）
B=概ね達成されている（目安；80%以上）
C=達成が不十分である（目安；80%未満）
D=達成できていない（目安；0%）
「－」=実績値不明、施策実施なし

●重点目標

重点目標は、全部で6項目（各目玉的重点施策について2つ）が設定されています。

6項目のうち、1項目が「A」、1項目が「B」、3項目が「C」でした。なお、1項目については、データの取扱いの制約から、評価をしていません。

●事業(実施プログラム)

目玉的重点施策に関する事業は全部で15事業ありますが、そのうち平成20年度に実施した事業は12事業でした。

これらの12事業のうち、8事業が「A」、3事業が「C」、1事業が「D」という結果になりました。「C」、「D」となった事業については、検討する必要があります。

●個別の指標・目標

全15項目の指標・目標について、8項目が「A」、1項目が「B」、3項目が「C」、1項目が「D」でした。なお、2項目については、データの取扱いの制約から、評価をしていません。

①目玉的重点施策1：自然と文化の調和する環境を目指して

行田市は、自然に恵まれ、歴史・文化を伝える水城公園や古代蓮の里などの資源が多くあります。これらを活かし、継承していくために、市民参加のもとで自然環境を調査したり、生態系の保全・再生をめざしたビオトープづくりなどの取り組みを進めていきます。

【重点目標の達成状況】

項目	達成状況	
	H19年度	H20年度
「行田市エコネットワーク（仮称）」の設立	C	C
ビオトープ活用	C	C

【事業（実施プログラム）の進捗状況】

項目	達成状況	
	H19年度	H20年度
行田市エコネットワークの設立（準備）	C	C
モデル地域の選出	—	—
行田市内の生物調査（トンボなど）の実施	A	—
農村地域の自然を生かした生物生息空間の創出	A	A
長善沼へのビオトープ設置検討	—	—
学校ビオトープを設置し、自然生態系にふれさせる	C	C
水城公園・古代蓮の里の清掃	A	A

【個別の指標・目標の達成状況】

項目	達成状況	
	H19年度	H20年度
生態系に配慮した水辺などの整備箇所数 （1箇所・H21年度）	A	A
行田市内で確認されたトンボの種数 （調査時点より増加・H18年度）	—	—
ビオトープの設置箇所数（2箇所・H21年度）	D	C
学校ビオトープ活用数	C	C
水城公園・古代蓮の里の清掃活動	A	A

②目玉的重点施策 2:循環型生活を目指して

行田市におけるごみの総排出量が増加傾向にあるため、市民一人ひとりがごみを出す量を減らし（リデュース）、再利用（リサイクル）や再使用（リユース）に加え不用品を買わない（リフューズ）を心がける“4R”に取り組むことが求められています。

今後とも、不用品登録制度や分別排出の促進、資源物の収集といった取り組みを徹底していきます。

【重点目標の達成状況】

項目	達成状況	
	H19年度	H20年度
廃棄物総排出量	—	—
リサイクル率	—	B

※南河原との合併により単純には比較できない。

【事業（実施プログラム）の進捗状況】

項目	達成状況	
	H19年度	H20年度
不用品登録制度の実施	A	A
分別排出の促進・資源物の収集	A	A
学校でのリサイクル品（アルミ缶、古紙等）の推進	A	A
学校での清掃活動の推進	A	A

【個別の指標・目標の達成状況】

項目	達成状況	
	H19年度	H20年度
不用品情報発信件数（件数の拡大・H21年度）	A	A
不用品登録制度の利用者の数（利用者の増加・H21年度）	A	A
リサイクル運動参加校数（13校・H21年度）	A	A
ごみゼロ運動参加校数（全校実施・H21年度）	A	A
廃棄物排出量の削減量（5%、1%削減/年・H21年度）	—	—
リサイクル率（20%、1%増加/年・H21年度）	—	B

③目玉的重点施策 3:環境活動の充実を目指して

行田市では、小中学校による「緑化コンクール」、環境関連の講演会など、各主体により環境保全活動が進められています。

今後は、各主体が情報を共有したり、意見交換をしたりしながら、協力・連携して活動ができるよう仕組みづくりを進めます。

【重点目標の達成状況】

項目	達成状況	
	H19年度	H20年度
出前講座	C	C
環境関連の講演会等	A	A

【事業（実施プログラム）の進捗状況】

項目	達成状況	
	H19年度	H20年度
環境関連の養成講座の実施	D	D
環境関連の講演会の実施	A	A
出前講座の実施	C	C
緑化コンクールへの参加の推進	A	A

【個別の指標・目標の達成状況】

項目	達成状況	
	H19年度	H20年度
研修会の開催回数、参加人数 (年4回、参加総人数100人・H21年度)	D	D
講演会の年間開催数、参加総人数 (年1回、200人・H21年度)	A	A
出前講座実践回数(年間10回以上)	C	C
緑化コンクールへの参加校数 (小学校16校、中学校8校・H24年度)	A	A

(2)重点的施策の進捗状況

ここでは、5つの基本目標に沿って、平成20年度における重点的施策の進捗状況及び目標達成状況を報告します。

なお、達成度を評価する基準は、以下のとおりです。

○=目標が達成されている
△=目標が一部達成されている
×=目標が達成されていない
「-」=実績値不明、施策実施なし

①基本目標1 ～自然の恵みと生き物の営みを守り育てる～

基本目標1に関する重点的施策（早急かつ重点的に取り組むべき施策）について、平成20年度の市の取組状況を紹介します。

【 基本目標1の重点的施策 】

～動植物の生息空間の確保～

豊かな生態系を保全・継承するために、ホタルやトンボ等の生息空間を確保することを目指します。

●重点的施策全体の進捗状況と目標達成状況(総括)

この分野の重点的施策に関連する具体的な施策は4つ、施策の進捗や効果を測る指標・目標は5つあります。また、施策に対する事業数は8つあります。

平成20年度の状況を総括すると、以下のようになりました。

目標達成状況	3つの目標が目標値を達成しています。
事業の進捗状況	3事業を、予定どおり実施しました。

●重点的施策全体の進捗状況と目標達成状況(詳細)

○樹木や雑草などの管理の徹底(各所管課・環境課)

指標	目標達成状況	
	H19年度	H20年度
樹木や雑草などの管理に関する相談件数（H15年度約100件）	○	○
事業名	実施状況	
管理者への通知	実施	実施

○動植物の調査の実施(環境課)

指標	目標達成状況	
	H19年度	H20年度
市内で確認された鳥類などの種数（市内生物調査結果）	37	—
ふるさと指標生物(行田市を代表する生き物の生息状況)	調査を実施	—
事業名	実施状況	
行田市エコネットワークの設立	準備	準備
市民参加による動植物の実態調査	実施	—
生態状況の作成	実施	—

○行田に生息・生育している希少動植物の保護(環境課)

指標	目標達成状況	
	H19年度	H20年度
希少種の生息・生育状況(公共事業などの計画・実施の際に、希少種の保護対策を実施した件数)	○	○
事業名	実施状況	
行田市エコネットワークの設立（再掲）	準備	準備
情報収集	実施	実施
市民参加型環境保全	準備	準備

○市内樹木調査の実施(文化財保護課)

指標	目標達成状況	
	H19年度	H20年度
巨樹・巨木の本数（H15年度317本）	○	○
事業名	実施状況	
市内樹木の調査・保全	実施	実施

②基本目標 2 ～大気・水・土が安全で公害のないまちをつくる～

基本目標 2 に関する重点的施策（早急かつ重点的に取り組むべき施策）について、平成 20 年度の市の取組状況を紹介します。

【 基本目標 2 の重点的施策 】

～有害物質の排出抑制の促進～

将来の世代に安全にらせる環境を引継ぐため、有害物質の排出抑制の促進を PR します。

●重点的施策の進捗状況と目標達成状況(総括)

この分野の重点的施策に関連する具体的な施策は 6 つ、施策の進捗や効果を測る指標・目標は 8 つあります。また、施策に対する事業数は 7 つあります。

平成 20 年度の状況を総括すると、以下のようになりました。

目標達成状況	6 つの目標値を達成し、2 項目は一部達成できました。
事業の進捗状況	7 事業を、予定どおり実施しました。

●重点的施策の進捗状況と目標達成状況(詳細)

○市内野焼き防止パトロール事業の実施(環境課)

指標	目標達成状況	
	H19 年度	H20 年度
野焼きに関する指導・相談件数	×	△
事業名	実施状況	
市内野焼き防止パトロール	実施	実施

○ばい煙発生施設合同立ち入り検査事業の実施(環境課[県と連携])

指標	目標達成状況	
	H19年度	H20年度
月1回検査を実施	○	○
事業名	実施状況	
ばい煙発生施設合同立ち入り検査	実施	実施

○ダイオキシン類調査(環境課)

指標	目標達成状況	
	H19年度	H20年度
ダイオキシン類の環境基準達成率	○	○
事業名	実施状況	
大気及び土壌中のダイオキシン類濃度測定分析	実施	実施

○工場などでの有害化学物質適正管理や適正処理の指導(環境課[県と連携])

指標	目標達成状況	
	H19年度	H20年度
事業者への指導回数	○	○
事業名	実施状況	
工場などでの有害化学物質適正管理や適正処理の指導	実施	実施

○公共施設などでの有害物質適正管理や適正処理の指導(環境課[県と連携])

指標	目標達成状況	
	H19年度	H20年度
化学物質の使用頻度	○	○
化学物質の使用量	○	○
事業名	実施状況	
公共施設での化学物質の適正使用(博物館内収蔵庫燻蒸事業)	実施	実施

○街路樹などの消毒時の配慮(商工観光課・環境課)

指標	目標達成状況	
	H19年度	H20年度
環境に対する影響の少ない消毒薬の使用	○	○
屋外の消毒薬の使用量	△	△
事業名	実施状況	
消毒薬による環境負荷の削減	残留毒性の少ない消毒薬を用いた桜の消毒実施	残留毒性の少ない消毒薬を用いた桜の消毒実施
屋外消毒（蚊等）	実施	実施

③基本目標 3 ～歴史や文化が息づく、環境に配慮した都市空間を創出する～

基本目標3に関する重点的施策（早急かつ重点的に取り組むべき施策）について、平成20年度の市の取組状況を紹介します。

【 基本目標3の重点的施策 】

～環境に配慮した景観の創造～

行田市の特徴である自然に囲まれた景観を保ちつつ、さらなる環境に配慮した景観の創造を目指します。

●重点的施策の進捗状況と目標達成状況(総括)

この分野の重点的施策に関連する具体的な施策は9つ、施策の進捗や効果を測る指標・目標は10あります。また、施策に対する事業数は6つあります。

平成20年度の状況を総括すると、以下のようになりました。

目標達成状況	実績の測定できた7項目の目標のうち、5項目を達成し、残りの2項目は一部達成できました。
事業の進捗状況	3事業を、予定どおり実施しました。

●重点的施策の進捗状況と目標達成状況(詳細)

○緑道の拡大(まちづくり推進課)

指標	目標達成状況	
	H19年度	H20年度
緑道整備延長	△	△
事業名	実施状況	
緑道整備	かすが緑道 ：検討中	かすが緑道 ：検討中

○緑のコミュニティ道路の整備(道路治水課)

指標	目標達成状況	
	H19年度	H20年度
整備延長	検討中	検討中

○グレードアップ路線の緑化充実(道路治水課)

指標	目標達成状況	
	H19年度	H20年度
緑化充実	検討中	検討中

○緑と花の街道づくりの推進(道路治水課)

指標	目標達成状況	
	H19年度	H20年度
街道整備	検討中	検討中

○ウォーキングロードの整備(保健センター・道路治水課・福祉課)

指標	目標達成状況	
	H19年度	H20年度
整備延長	○	○
事業名	実施状況	
道路改良工事	施策の充実	施策の充実

○サイクリングロードの整備(まちづくり推進課・道路治水課・商工観光課)

指標	目標達成状況	
	H19年度	H20年度
サイクリングロードの整備延長 (埼玉県行田県土整備事務所で計画中)	△	△
自転車の貸出数	○	○
事業名	実施状況	
サイクリングロードの整備	検討	検討

○放置自転車対策の実施(防災安全課)

指標	目標達成状況	
	H19年度	H20年度
整理業務	○	○
事業名	実施状況	
駐輪場の整備	○	○

○自然あふれる歴史的文化遺産の保全(文化財保護課)

指標	目標達成状況	
	H19年度	H20年度
美化活動の実施	○	○
事業名	実施状況	
自然遺産周辺の美化活動	小崎沼の清掃活動を実施	小崎沼の清掃活動を実施

○登録文化財制度による古い建物の保存の検討(文化財保護課)

指標	目標達成状況	
	H19年度	H20年度
登録文化財の件数	○	○
事業名	実施状況	
古民家調査の実施	補足調査を実施	補足調査を実施

④基本目標 4

～ごみ減量、資源・エネルギーの有効利用をし、産業や経済との調和を図る～

基本目標 4 に関する重点的施策（早急かつ重点的に取り組むべき施策）について、平成 20 年度の市の取組状況を紹介します。

【 基本目標 4 の重点的施策 】

～廃棄物減量化の促進～

行田市において既に活発に推進されている廃棄物分別に加えて、次のステップである廃棄物の減量化の促進を目指します。

～新エネルギーの推進～

省エネルギーとともに、より積極的な地球環境問題対策としての新エネルギー導入の推進を目指します。

●重点的施策の進捗状況と目標達成状況(総括)

この分野の重点的施策に関連する具体的な施策は 13（廃棄物減量化の促進：10、新エネルギーの推進：3）、施策の進捗や効果を測る指標・目標は 19（廃棄物減量化の促進：13、新エネルギーの推進：6）あります。また、施策に対する事業数は 23（廃棄物減量化の促進：17、新エネルギーの推進：6）あります。

平成 20 年度の状況を総括すると、以下のようになりました。

目標達成状況	14 の目標を達成し、1 つの目標を一部達成しました。
事業の進捗状況	19 事業を、予定どおり実施しました。

●重点的施策の進捗状況と目標達成状況(詳細)

◀廃棄物減量化の促進▶

○収集体制の充実(環境課)

指標	目標達成状況	
	H19年度	H20年度
適切な収集体制の確保	○	○
事業名	実施状況	
過重負荷の防止の周知啓発	継続	継続

○行政による資源リサイクルシステムの整備(環境課)

指標	目標達成状況	
	H19年度	H20年度
品目ごとの収集量	△	△
事業名	実施状況	
行政による資源物収集	継続	継続

○不法投棄対策の徹底(生活課・環境課)

指標	目標達成状況	
	H19年度	H20年度
清掃活動の回数	○	○
不法投棄防止の看板設置数(上越新幹線高架下、国道沿い)	○	○
事業名	実施状況	
ごみゼロ運動等	継続	継続
不法投棄防止の看板の設置	継続	継続

○環境センターの適正な運転管理(環境課)

指標	目標達成状況	
	H19年度	H20年度
運転管理において使用した電気、水、薬品量	△(電気量、薬品量のみ達成)	○
事業名	実施状況	
運転管理のコストダウン	実施	実施

○粗大ごみ処理場の適正な運転管理(環境課)

指標	目標達成状況	
	H19年度	H20年度
適正な運転管理	○	○
事業名	実施状況	
粗大ごみ処理場の適正な運転管理	実施	実施

○最終処分場の管理(環境課)

指標	目標達成状況	
	H19年度	H20年度
地下水及び河川の水質検査 検査項目：地下水環境基準項目、ダイオキシン類、有害重金属	○	○
事業名	実施状況	
臨時的なものの埋立	—	—
覆土	実施	実施
跡地利用	準備	準備

○資源物収集の徹底(環境課)

指標	目標達成状況	
	H19年度	H20年度
リサイクル率＝資源回収量÷(ごみ収集量＋資源回収量)×100	—	×
事業名	実施状況	
資源物収集の徹底	実施	実施

○建設リサイクル法による対象建設工事の届出の徹底(開発指導課)

指標	目標達成状況	
	H19 年度	H20 年度
届出工事の点検	○	○
無届工事監視パトロール回数	○	○
事業名	実施状況	
啓発広報活動(県作成)	窓口にてパンフレット等配布	随時啓発活動を実施
届出工事の点検実施	届出のあったすべての解体工事の立入点検を実施(届出件数132件)県東部環境管理事務所への情報提供	建築リサイクル法に基づいて点検・パトロールを実施
無届工事監視パトロール	週2回の建築違反パトロールにあわせて市内全域のパトロールを実施	週1回パトロールの実施

○事業所におけるごみ分別や資源リサイクルの促進(環境課)

指標	目標達成状況	
	H19 年度	H20 年度
リサイクル率=資源回収量÷(ごみ収集量+資源回収量)×100	—	×
情報の提供	○	○
事業名	実施状況	
事業所に対する分別搬入の徹底	実施	実施
広報誌による情報提供	実施	実施

○公共施設内でのごみ分別の啓発(環境課)

指標	目標達成状況	
	H19 年度	H20 年度
公共施設でのリサイクル率 (公共施設内で資源化した量÷発生したごみ総量×100)	○	○
事業名	実施状況	
ごみの分別排出	継続	継続
「再生品利用ガイドライン」の発行	実施	実施

《新エネルギーの推進》

○公共施設での自然エネルギーの活用(建築課・社会福祉協議会・中央公民館)

指標	目標達成状況	
	H19年度	H20年度
太陽光発電利用外灯導入施設数、導入率	○	—
太陽熱温水施設導入施設数、導入率	○	○
太陽光発電システム導入施設数、導入率	○	○
事業名	実施状況	
太陽光発電を利用した外灯などの設置	実施	—
太陽熱温水システムの導入	実施	実施
太陽光発電の実施	実施	実施

○家庭や事業所での新エネルギーの導入支援(環境課)

指標	目標達成状況	
	H19年度	H20年度
新エネルギーの情報提供	— (調査・検討)	○
新エネルギー(太陽光発電など)設置導入支援件数	— (調査・検討)	— (調査・検討)
事業名	実施状況	
新エネルギー導入に関する情報収集及び研究	調査	実施
導入支援の検討	調査	調査

○ものづくり大学による風力発電設備の開発・研究(商工観光課)

指標	目標達成状況	
	H19年度	H20年度
風力発電の設置数	○	○
事業名	実施状況	
風力発電	実施	実施

⑤基本目標 5 ～行田市全体で地球環境に配慮した活動に取り組む～

基本目標5に関する重点的施策（早急かつ重点的に取り組むべき施策）について、平成20年度の市の取組状況を紹介します。

【 基本目標 5 の重点的施策 】

～環境教育の充実～

市民が環境問題を身近なものとして捉えていくような、
環境教育の充実を目指します。

●重点的施策の進捗状況と目標達成状況(総括)

この分野の重点的施策に関連する具体的な施策は8つ、施策の進捗や効果を測る指標・目標は12あります。また、施策に対する事業数は10あります。

平成20年度の状況を総括すると、以下のとおりです。

目標達成状況	8の目標を達成し、1つの目標を一部達成しました。
事業の進捗状況	9事業を、予定どおり実施しました。

●重点的施策の進捗状況と目標達成状況(詳細)

○行田市特色ある学校づくり「スクールルネサンス」事業の実施(学校教育課)

指標	目標達成状況	
	H19年度	H20年度
環境教育実施校数	○	○
事業名	実施状況	
福祉、環境、文化などの活動支援	実施	実施

○学校における環境教育の推進(学校教育課)

指標	目標達成状況	
	H19年度	H20年度
環境教育実施校数	○	○
事業名	実施状況	
教科などを通しての環境教育	環境教育主任会を年間3回実施	環境教育主任会を年間3回実施

○学校緑化事業の推進(教育総務課・学校教育課)

指標	目標達成状況	
	H19年度	H20年度
学校緑化コンクール実施校数 (平成14～16年度ローテーションで2校)	○	○
学校緑化実施校数/1人1鉢運動実施校数	○	△
事業名	実施状況	
学校緑化コンクール参加校の支援	2校実施	2校実施
PTAによる緑化活動	各学校ごとに計画し、実施	各学校ごとに計画し、実施

○環境に配慮した児童生徒用机・椅子などの購入(教育総務課)

指標	目標達成状況	
	H19年度	H20年度
環境に配慮した机・椅子の整備率(新規格机・椅子購入総数/全児童・生徒数)適正な運転管理	○	○
事業名	実施状況	
机、椅子の入れ替え	入れ替え済み	完了

○環境教育推進状況調査実施(学校教育課)

指標	目標達成状況	
	H19年度	H20年度
アンケートの実施校数	○	○
事業名	実施状況	
アンケート調査	環境教育に関する調査の実施	環境教育に関する調査の実施

○地球にやさしい商品などの紹介や環境学習の推進(学校教育課)

指標	目標達成状況	
	H19年度	H20年度
環境学習実施校数	○	○
事業名	実施状況	
地球にやさしい商品などの紹介や環境学習の推進 (エコマーク、リサイクルマーク等)	総合的な学習の時間に実施	総合的な学習の時間に実施

○市内大学等の学生へのアイデア募集(商工観光課・環境課)

指標	目標達成状況	
	H19年度	H20年度
ものづくり大学の生徒数・講座数	○	○
テクノ・ホルティ園芸専門学校の生徒数・講座数	○	○
集まったアイデアの数(1年間に採用された作品の総数)	—	—
事業名	実施状況	
環境関係講座の開設	実施	実施
学校等の現状調査やアイデア募集	調査	調査

○市民への環境家計簿の導入指導(環境課)

指標	目標達成状況	
	H19年度	H20年度
環境家計簿認知度(市民アンケートより把握)	○	—
環境家計簿の講習会の実施回数	○	×
事業名	実施状況	
環境家計簿モニター実施(電子、紙)	実施	実施

(3)数値目標の達成状況

実行計画は、環境基本計画に掲げた基本目標について、達成状況や進捗状況を評価するための“ものさし”となる数値目標を設定しています。

ここでは、5つの基本目標に沿って、平成20年度における数値目標を報告します。なお、達成度を評価する基準は以下のとおりです。

A=目標が達成されている（目安；100%）
 B=概ね達成されている（目安；80%以上）
 C=達成が不十分である（目安；80%未満）
 D=達成できていない（目安；0%）
 「-」=実績値不明、施策実施なし

①数値目標でみる、環境基本計画の達成状況

実行計画では、全部で65項目の数値目標が設定されています。このうち、評価対象外の項目を除いた61項目についてみると、39項目が「A」、3項目が「B」、12項目が「C」、7項目が「D」という結果になりました。

また、目標達成率をポイント化して基本目標ごとに比較しました。「基本目標2～大気・水・土が安全で公害のないまちをつくる～」及び「基本目標3～歴史や文化が息づく、環境に配慮した都市空間を創出する」が最もポイントが高く、「基本目標5～行田市全体で地球環境に配慮した活動に取り組む～」が最もポイントが低い結果となりました。

	目標 設定数	評価 対象外*1	目標達成率(数値は該当する施策数)				ポイント*2 (昨年度比)
			A:100%	B:80% 以上	C:80% 未満	D:0%	
基本目標1	11	0	7	1	3	0	2.4(+0.3)
基本目標2	28	2	19	2	4	1	2.5(-0.2)
基本目標3	8	0	6	0	2	0	2.5(±0.0)
基本目標4	5	1	2	0	1	1	1.8(+0.8)
基本目標5	13	1	5	0	2	5	1.4(±0.0)
総合	65	4	39	3	12	7	2.2(±0.0)

※1 実績が不明、関連する施策の実施がない等により、目標の達成状況が把握できないもの。

※2 A=3ポイント、B=2ポイント、C=1ポイント、D=0ポイントとし、平均化したもの。

②基本目標 1 における数値目標の達成状況

指標		目標（目標年度）	評価	
			H19	H20
緑化目標値	市営住宅敷地内緑地面積	敷地面積の3%（平成21年度） ※都市計画法の基準	A	A
	学校緑地面積	敷地面積の3%（平成21年度） ※都市計画法の基準	C	A
	都市公園の緑化面積	都市公園面積の50%以上	A	A
	生産緑地地区の緑化面積	20.22ha(現状維持) (平成27年度)	A	A
	緑道の整備量	2.4m ² /人（平成27年度）	C	C
	民間施設緑地の整備量	0.29ha(現状維持)(平成27年度)	—	B
	民有地の緑化面積	2,641.62m ² （平成27年度）	—	A
公園・緑地面積	総面積	1,894,000m ² （平成27年度）	C	C
	市民1人当たり	17.5m ² （平成27年度）	C	C
管理活動状況	学校内の草刈などの回数	年1回（現状維持）	A	A
	学校内の樹木の剪定	年1回（現状維持）	A	A

③基本目標 2 における数値目標の達成状況

大気環境の保全

指標		目標（目標年度）	評価	
			H19	H20
大気に関する 環境基準	ダイオキシン類濃度年平均値	環境基準の維持・向上 【 $\leq 0.6\text{pg-TEQ}/\text{m}^3$ 】	A	A
	浮遊粒子状物質濃度(SPM)	環境基準の維持・向上 【 $\leq 0.1\text{mg}/\text{m}^3$ 】	A	A
	二酸化硫黄濃度(SO ₂)	環境基準の維持・向上 【 $\leq 0.04\text{ppm}$ 】	A	A
	二酸化窒素濃度(NO ₂)	環境基準の維持・向上 【 $\leq 0.04\text{ppm}$ 】	A	A
低公害車 導入台数・ 導入率	公用車（本庁車）*軽自動車・バスを除く	10台・25.6%（10/39台） （平成20年度）	A	A
	公用車（環境課内）	2台（平成21年度）	C	D
	移動図書館車	1台（現状維持）	A	A
	市内循環バス	委託車両入替時に逐次導入検討	—	—

水資源の保全・改善

指標		目標（目標年度）	評価		
			H19	H20	
河川の水質に関する環境基準	pH(水素イオン濃度指数)	環境基準の維持・向上【6.5~8.5】	A	A	
	BOD 年平均値 (生物化学的酸素要求量)	環境基準の維持・向上【 $\leq 5\text{mg}/\ell$ 】	C	A	
	SS 年平均値(浮遊物質量)	環境基準の維持・向上 【 $\leq 50\text{mg}/\ell$ 】	A	A	
	DO 年平均値(溶存酸素量)	環境基準の維持・向上【 $\geq 5\text{mg}/\ell$ 】	A	A	
	MBAS 年平均値(合成洗剤主成分)	環境基準の維持・向上【 $\leq 1\text{mg}/\ell$ 】	A	A	
	T-N 年平均値(全窒素)	環境基準の達成【 $\leq 1\text{mg}/\ell$ 】	A	C	
	T-P 年平均値(全磷)	環境基準の達成【 $\leq 0.1\text{mg}/\ell$ 】	C	C	
河川底質に関する環境基準	PCB 含有量(ポリ塩化ビフェニル)	環境基準の維持・向上 【 $\leq 10\text{ppm}$ 】	A	A	
	T-Hg 含有量(総水銀)	環境基準の維持・向上 【 $\leq 25\text{ppm}$ 】	A	A	
地下水の水質に関する環境基準	有機塩素化合物	トリクロロエチレン	環境基準の維持・向上 【 $\leq 0.03\text{mg}/\ell$ 】	A	A
		テトラクロロエチレン	環境基準の維持・向上 【 $\leq 0.01\text{mg}/\ell$ 】	A	A
		1,1,1-トリクロロエタン	環境基準の維持・向上 【 $\leq 0.3\text{mg}/\ell$ 】	A	A
下水道普及率	人口普及率	57.3%(平成 19 年度)	A	B	
透水性舗装整備延長	道路・駐車場	新設大規模建設物については 100% (平成 21 年度)	—	—	
	歩道	13,000 m ² 、8 箇所 (平成 19 年度)	A	A	
公共施設での雨水・中水利用	雨水・中水利用システム 導入件数	新設大規模建設物については 100%	A	A	
合併処理浄化槽の普及促進	補助件数(単年度)	100 件 (平成 21 年度)	A	B	

土壌・地盤環境の保全

指標		目標（目標年度）	評価	
			H19	H20
土壌に関する環境基準	ダイオキシン類濃度年平均値	環境基準の維持・向上 【 $\leq 1,000\text{pg-TEQ}/\text{g}$ 】	A	A

騒音・振動の防止

指標		目標（目標年度）	評価	
			H19	H20
騒音に関する 環境基準	上越・長野新幹線騒音	新幹線環境基準の達成【 $\leq 70\text{dB}$ 】	B	C
	市内道路交通騒音	環境基準の達成率 100%	B	C

④基本目標 3 における数値目標の達成状況

環境資源を楽しむ観光の振興

指標		目標（目標年度）	評価	
			H19	H20
美化活動の実施 回数/参加人数	河川美化運動	年 4 回・延べ 200 人 (平成 20 年度)	B	C
	市内一斉空き缶回収運動	年 1 回（現状維持）	A	A
	ごみゼロ運動	年 1 回（現状維持）	A	A
	「ふるさとの森」清掃活動（緑のボランティア）	100 人（平成 21 年度）	C	C

環境保全型農業の推奨

指標		目標（目標年度）	評価	
			H19	H20
農業とのふれあいの機会、参加人数	行田市農業祭	参加者の増加 (平成 15 年度 約 2,000 人)	A	A
農地面積	水田面積	2,400ha（現状維持）	A	A
行田産野菜などの販売額	直売所販売額	平成 15 年度比 3%増額・ 約 1 億 9,800 万円(平成 21 年度)	B	A
エコファーマー認定数	認定件数	1 件	A	A

⑤基本目標 4 における数値目標の達成状況

指標		目標（目標年度）	評価	
			H19	H20
電気使用量	行田市役所	平成 18 年度を基準として 5%削減(平成 20~24 年度)	D	D
	総合体育館内	906,198kWh・月平均約 7.6 万 kWh（平成 19 年度）	D	A
	やすらぎの里施設内	前年度（337,038 kWh）より削減	A	A
太陽光発電導入件数	公共施設	5 件（平成 21 年度）	C	C
LED ランプ導入件数	市街地の街路灯	新たに 2 件（平成 21 年度）	—	—

⑥基本目標 5 における数値目標の達成状況

市民・事業者の参加・協力管理体制の充実

指標		目標（目標年度）	評価	
			H19	H20
市民参加の活動件数、参加人数	花いっぱい運動	年1回 15人（現状維持）	B	A
	緑や花のイベント	170人（現状維持）	C	A
		年1回（開催数・平成21年度）	C	A
	自然観察会など	年3回 80人（平成21年度）	C	C
	環境イベントでの市民満足度	市民満足度の向上	B	D
事業者の環境配慮活動状況	環境にやさしい商品開発数	2個（平成21年度）	—	—
	ノーレジ袋推進店舗数	15店舗（平成21年度）	C	C
	ISO取得支援件数	3件（平成21年度）	A	A
市民、企業、NPOとの協働事業件数	事業件数	年3件（平成21年度）	C	A
地域環境指導者の登録人数	埼玉県環境アドバイザー	それぞれの環境問題などに対応できる人材を確保する	A	D
	市内の環境リーダー	それぞれの環境問題などに対応できる人材を確保する	B	D

市の環境配慮の率先実行

指標		目標（目標年度）	評価	
			H19	H20
ISO14001の認証取得	本庁舎	本庁舎での取得（平成21年度）	D	D
温室効果ガス総排出量	行田市役所	平成12年度を基準として5%削減（平成14～18年度）	D	D

～皆様からのご意見・ご感想をお聞かせください～

行田市の環境施策や、この「平成 21 年度版 行田市環境報告書～この地球とともに～」について、お気づきの点やご意見、ご感想等がございましたら、下記までご連絡ください。

今後の環境施策の推進や、よりわかりやすい環境報告書づくりの参考にさせていただきます。

【あて先】

行田市環境経済部環境課環境政策担当

〒361-0031 埼玉県行田市緑町 13 番 12 号

電話：(048) 556-9530 FAX：(048) 553-0792



平成 21 年度 行田市環境報告書
～この地球とともに～

平成 22 年 3 月発行

発行 行 田 市

編集 行田市環境経済部環境課

〒361-0031

埼玉県行田市緑町 13 番 12 号

電話 (048) 556-9530

FAX (048) 553-0792

この冊子は、再生紙（古紙パルプ配合率 100%）を使用しています。